
多面的機能支払 メールマガジン
「農村ふるさと保全通信」 第 131 号(2023.12.1)
農林水産省農村振興局 多面的機能支払推進室



高めよう 地域協働の力！

多面的機能支払のメールマガジン「農村ふるさと保全通信」の第131号をお届けします。

---第 131 号の目次---

1. 活動組織の活動紹介

☆^{しばはし}柴橋 ^{たいない}環境保全会（^{たいない}胎内 市広域協定）（新潟県 胎内 市）☆

同市内の大学の学生も草刈りや生き物調査などに参加しています！また、LINE 公式アカウントを作成し、大学生をはじめとする若者が活動に参加しやすいようにしています！

☆^{こたがわ}小田川 ^{にらさき}地域農村資源・環境保全推進委員会（山梨県 韮崎 市）☆

ホタルの保全活動にも力を入れて農村風景を伝承したり、組織内や他地区と合同で水路補修の実技研修を開催し、水路の補修などを全て直営施工で行っています！

2. 代表者等へのインタビュー

☆^{こおりまち}桑折町 ^{こおりまち}多面的機能支払交付金広域協定運営委員会（福島県 桑折町）☆

広域化した組織に、広域化したきっかけ、特に力を入れて取り組んでいること、代表として心掛けていることなどを聞きました！

3. 活動組織の広報誌紹介

☆^{しわちょうみすわけかみ}紫波町 水分上 地区環境保全活動組織（岩手県 ^{しわぐん}紫波郡 ^{しわちょう}紫波町）☆

5つの集落の事務局が協力して広報誌を作成し、水質保全の大切さや田んぼダムについて周知しています！

4. 兵庫県 ^{かこがわ}加古川 市で「草刈りフェス 2023」が行われました！

【編集後記】

■ 1. 活動組織の活動紹介(1) ～^{しほし}柴橋環境保全会(^{たいない}胎内市広域協定)(新潟県^{たいない}胎内市)～ ■

～ 地 区 概 要 ～

本地区は県北部の胎内市に位置しており、宅地化や少子高齢化による人口減少が進んでいる地域です。活動の継続を図るため、積極的に住民間の交流活性化が図られているほか、大学と連携した活動が展開されており、SNS 等を活用した情報発信も行っています。

活動範囲は、田 91.7 ha、畑 0.8 ha、農道 10.3 km、水路 10.3 km。

～ 主 な 取 組 ～

- ◎ 本組織は、農道・水路の草刈りや農道補修、江ざらい等の活動のほか、女性部による花の植栽活動、農用地周辺のゴミ拾いをするクリーン作戦、休耕田を活用したさつまいもの収穫体験等も実施しています。
- ◎ 平成 30 年からは、同市内に新たな大学ができたことをきっかけに大学との連携を開始しました。大学生は草刈り作業だけでなく、生き物調査等の活動にも参加しており、地域住民との交流が生まれ、「多様な主体の参画」による地域の活性化が図られています。
- ◎ 地域外の人を呼び込む仕掛けとして、広報紙に加えて組織のブログを作成しており、誰でも活動の様子を見ることができるようにしています。さらに、LINE 公式アカウントを作成し、大学生をはじめとする若者が活動に参加しやすいようにしています。
- ◎ 今後も、農家だけでなく非農家も含めた地域ぐるみの活動を継続していきたいです。
【胎内市広域協定運営委員会事務局】

女性部による花の植栽活動



収穫祭（大学生も手伝い）



大学生が参加する草刈り



大学生による生き物調査



編集担当 SDGs コメント

市内の大学生と連携した「多様な主体の参画」による活動は、目標 11（住み続けられる地域をつくる）に貢献しています。また、スマホユーザーの開封率が高い LINE を活用した情報発信は、世代を問わず情報を効果的に提供できますね。これからも多様な主体を巻き込んだ地域ぐるみの活動を応援しています！



etc.

■ 1. 活動組織の活動紹介(2) ～小田川^{こたがわ}地域農村資源・環境保全推進委員会(山梨県

韮崎市)^{にらさき}～ ■

～地区概要～

当地区は山梨県の北西部に位置する韮崎市の北部に位置し、県内有数のホタルの里といわれる昔ながらの農村風景が残る田園地帯です。

活動範囲は、田 17.5ha、農道 2.0km、水路 4.0km。

～主な取組～

◎「子供達にホタルをみせたい」といった思いからホタルの保全活動や地域の伝統文化であるホタルかご作りを実施しています。

ホタルの鑑賞時期には「小田川ホタル祭り」を開催し、地域も一緒となり地域食材の販売や PR 活動を行うとともに、都内企業の農業体験研修(新採用社員)誘致など都市農村交流を積極的に図っています。

◎とくにホタルの繁殖活動に力を入れており、ホタルの餌となるカワニナの保護とホタルの養殖を行っています。6 月のホタルの飛翔時期に雄雌を保護し、水槽で産卵させた後に 11 月頃まで幼虫を育て、地域の子供たちと川へ放流しています。特に最近は猛暑が続き、以前のように幼虫が育たないこともあり、苦労しています。

◎また、当組織では水路の修繕や農道の舗装など、すべて直営施工で実施しています。組織内や他地区と合同で水路補修の実技研修を開催し、幅広い世代に技術の伝承を行っています。

◎今後も、地域の伝統・文化・技術や農村地域の景観を次世代に引き継ぐための活動に尽力していきたいです。

【小田川地域農村資源・環境保全推進委員会】



乱舞するホタル



企業の農業体験研修



ホタルの養殖装置



水路補修の実技研修

編集担当 SDGs コメント

組織内や他地区と合同で水路補修の実技研修を行うことは、目標9（災害に強いインフラづくりとそのための技術の開発に貢献する）に貢献しています！また、ホタルの繁殖活動にも力を入れ、「小田川ホタル祭り」を開催することは、目標8（地域における所得向上や雇用の確保を図る。）に貢献しています！これからも地域の伝統・文化・技術を次世代に引き継ぐことを応援しています！



etc.

■2. 代表者等へのインタビュー

～^{こおりまち}桑折町 多面的機能支払交付金広域協定運営委員会(福島県^{こおりまち}桑折町)～■

組織の概要

福島県桑折町は、福島県の北部に位置し、町西部の山間地域から東部の一級河川阿武隈川沿いの平地地域まで、樹園地や水田が広がっており、主に水稻・果樹・施設園芸の複合経営が行われています。特産の桃は、農家の方々が長年培ってきた技術により高い品質を誇り、30年連続で皇室に献上されています。

多面的機能支払交付金については、町内10組織で取り組んでいたが、平成30年に伊達西根堰土地改良区を事務局とし、広域組織を設立しました。

令和4年度には、優良活動組織として、福島県知事賞を受賞しています。

活動範囲：田209ha 畑88ha

対象施設：水路42km 農道12km ため池1箇所



～ インタビュー ～

○話し手 桑折町多面的機能支払交付金広域協定運営委員会
会長 平井吉衛さん

○聞き手 福島県農村振興課



Q：広域組織を設立することになったきっかけを教えてください。

A：集落毎にある活動組織の代表者が集まって話し合う中で、今は活動を行うことができているが、今後高齢化が進み、将来的にそれぞれ活動していくことには限界があるとの考えが共通していることがわかりました。そこで、土地改良区を事務局として事務負担の軽減を図りながら、町一体となって活動を行っていこうということになり、広域組織を立ち上げることとなりました。

Q：特に力を入れて取り組んでいる活動は何ですか。

A：広域組織を立ち上げる前は、各組織とも、事務負担増加を懸念して、農地維持支払交付金に係る活動にのみ取り組んでいました。広域化をきっかけに、資源向上支払交付金を活用して、各集落の課題に対応した活動や地域の特色を生かした活動ができるようになりました。

例えば、山間部では、鳥獣害防止柵の設置や緩衝帯の管理を広域的に実施しています。また、水路の更新は、事務局で資材を一括購入するとともに、組織内で技術を持っている構成員が自分の住む地域ばかりでなく、広域的に支援すること

により、直営施工で実施しています。さらに、令和元年東日本台風をきっかけに、阿武隈川に近い地域の水害を防止するため、上流域で田んぼダムの実証を行っています。

Q：代表として心がけていること、工夫していることは何ですか。

A：活動組織の代表者などが一斉に集まる機会は限られているので、その中で各集落の課題やそれぞれの活動の内容をよく聞き、広域組織の皆で情報共有するように努めています。

Q：共同活動を行って良かったことは何ですか。

A：多面的機能支払交付金の活動に取り組んだことで、町民一体となって農地や農村環境を保全して行こうという意識の変化を感じます。広域組織の事務局を土地改良区が担っていることで、新しく組織の役員となった方も、活動や制度の内容について質問しやすいなど、ちょっとしたことですが、継続的な活動に向けた体制が整っていると思います。

Q：今後の展望や目標を教えてください。

A：広域組織となり体制が整ったことで、これまで実施していなかった集落も取り組みやすいというメリットがあり、広域組織の設立当初より、多面的機能支払交付金に取り組んでいる農地は大幅に増加しています。まだ取り組んでいない集落もあるので、町の農地全体で取り組んでいけるよう、多面的機能支払交付金について周知していきたいです。



鳥獣害防止柵の設置



田んぼダムの取組



景観形成活動の取組

【福島県農村振興課】

編集担当 SDGs コメント

広域組織化により組織の連携強化、土地改良区との連携を図る活動は、目標 17 の活動に貢献しています。また、持続可能な地域づくりに向け、町民一体となった農村環境の保全や土地改良区に事務委託を行う取り組みは目標 12 の活動に貢献しています！

広域組織のメリットを生かして、本交付金の取組をより多くの方々にご理解いただき、町全体で活動の輪が広がるよう、今後も取組の推進、周知等をお願いします。



etc.

3. 活動組織の広報誌紹介～紫波町 水分上 地区環境保全活動組織(岩手県 紫波郡 紫波町)～

広報誌の概要

- ・ 本組織の広報誌は、令和4年度から発行を開始し、年1回の配布を計画しています。
- ・ 本組織は5つの集落から構成されていて、各集落の事務局が協力して広報誌を作成しています。(作成担当者は、各集落から1名ずつの計5名)
- ・ 広報誌は、組織の構成員の皆様には紙で配布しているほか、公民館を利用する地域の方にも見てもらうために、公民館にも掲示しています。

～工夫しているポイント～

○ポイント1 作業の分担○

広報誌の作成が負担にならないように、5人の担当で分担して作成しています。

また、担当者ごとにテーマを割り当てることで、内容が被らない様に工夫しています。

○ポイント2 記事には必ず写真を使う○

記事に興味を持ってもらうために、必ず写真を使うようにしています。

○ポイント3 水質調査の結果を詳しく記載○

水質保全の大切さを知ってもらうために、調査の内容や結果を詳しく記載しています。

○ポイント4 活動への理解を深める○

組織の活動への理解を深めてもらうために、田んぼダムの仕組みなど、多面的機能支払交付金の活動についての説明を記載しています。

かわら版



委員会報告⇒農地・環境維持に効果、必要性を共有 令和4年度を振り返る
活動報告⇒*畦畔草刈り*共同草刈り*鳥獣害対策の取り組み
*生き物調査の結果*環境保全活動の取り組み

*****第1号*****
発行 / 水分上地区環境保全活動組織
代表 / 岡本嘉孝

ポイント1 作業の分担

広報誌の作成が負担にならないように、5人の担当で分担して作成しています。

また、担当者ごとにテーマを割り当てることで、内容が被らない様に工夫しています。



水分上地区環境保全活動組織は去る12月11日、吉水公民館で第3回運営委員会を開催し、4年度の事業進捗状況を確認するとともに、取り組みの効果の確認やさらなる取り組みの必要性を共有しました。
(写真: 5/25 第1回運営委員会【総会】)

農地・環境維持に効果
必要性を共有
令和4年度を振り返る



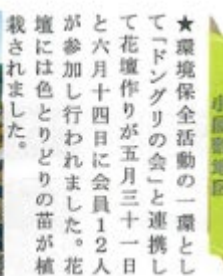
★水田畦畔の一斉草刈りを六月五日と七月三日に実施。最初に集合写真を撮った後、作業を開始し、確認作業を行いました。



★耕作放棄地対応の取り組みでは六月十三日に除草剤散布、九月十四日には機械作業による草刈りを実施しました。



★水田畦畔の一斉草刈りを六月五日と七月九日に29人が参加し行いました。



★環境保全活動の一環として「ドングリの会」と連携して花壇作りが五月三十一日と六月十四日に会員12人が参加し行われました。花壇には色とりどりの苗が植栽されました。



★南伝法寺地区では、45人が参加し六、七月の畦畔草刈りを実施しました。写真撮影は農家個々の作業日に合わせて日程調整を経て役員が行っています。

ポイント2 記事には必ず写真を使う

記事に興味を持ってもらうために、必ず写真を使うようにしています。



事務局 菅川 正

◇告知◇板◇

◇田んぼダムの資材配布について◇
ようやく資材準備が整い三月中に該当者に配布します。設置は、原則として無償ですが



生物の生息調査と水質モニタリング
調査地点3カ所で「きれいな水」評価

農村の生産環境向上活動の一環として、水質保全を目的に生物の生育状況や水質のモニタリングを令和4年10月25日水田地区内の①高水寺郷の吉水川②小屋敷川③漆田川の各1カ所、計4カ所で行いました。モニタリングには環境マイスター紫波4人の他に当組織から3人が参加。水路の状況では形状や水流の速さ、水深等を調査しました。生物の生息状況では、指標生物（注1）やその他生物を採取・捕獲し調査しました。水質調査では、pH・COD（注2）・透明度等を調査しました。結果、「高水寺郷」「吉水川」「小屋敷川」がきれいな水の「水質階級Ⅰ」に、「漆田川」が汚い水の「水質階級Ⅲ」であることがわかりました。なお、調査は河川の任意の1カ所ずつであるため、河川全体を評価したものではないことを申し添えます。

【調査結果】

調査場所	高水寺郷	吉水川	小屋敷川	漆田川
水質				
指標生物	数が多かった●・見つかった○			
きれいな水Ⅰ	1カワグサ類 2ヒラタカゲロウ類 3ナガレトビケラ類 4ヤマトビケラ類 5ナミウスミシ	●	○	○
ややきれいな水Ⅱ	1ヒラタドロムシ類 2ゲンジボタル 3コオニヤンマ 4カウナナ類 5ヤマトシジミ 6イシマキガイ 7オオシマトビケラ類	○	○	○
きれいな水Ⅲ	1ミズカマキリ 2ミズムシ 3タニシ類 4シマイシビル 5ニホンドロコエビ 6イソコツツムシ類	○	○	○
汚い水Ⅳ	1ユスリカ類 2チョウバエ類 3アメリカザリガニ 4エラミミズ 5サカマキガイ	○	○	○
水質階級の判定				
水質階級	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ
1. CODとBODの数値	2	2	2	2
2. ●印の個数	2	1	1	1
3. 合計(1欄+2欄)	4	3	3	3
その地点の水質階級	Ⅰ	Ⅰ	Ⅰ	Ⅲ

ポイント4

活動への理解を深める

組織の活動への理解を深めるために、田んぼダムの仕組みなど、活動内容についての説明を記載しています。

★鳥獣害対策の取り組みが六月十九日全地区で行われ、上松本班は上松本武田氏牧草地隣接地で25人が参加し草刈り作業を行いました。



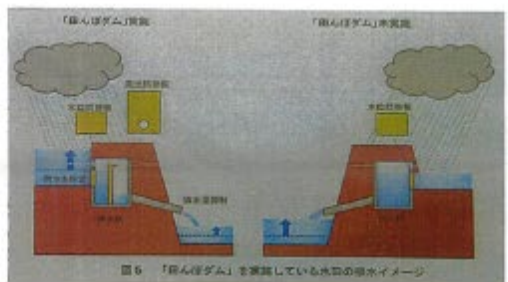
した。水分上地区管内では最近イノシシ被害が多発しており、特に水稲の食害により減収が著しく深刻な問題となっています。このため、当組織では、重要な取り組みと位置づけ、活動を行っています。

ポイント3

水質調査の結果を詳しく記載

水質保全の大切さを知ってもらうために、調査の内容や結果を詳しく記載しています。

十五日現在、交592万2千円超額を含めた1百円が執行さ合は84.9%す。支出は予算0%の7999されました。中ドレン樹セットが599万円、森側溝敷設費なっています。て執行予定は588万円とな



★田んぼダムとは★「田んぼダム」を実施する地域やその下流域の洪水被害リスクを低減するための取り組みです。上図のように落水口に流量を抑制するための堰板や小さい穴のついた調整板などを取り付けることで、水田に降った雨水を時間をかけてゆっくりと排水し、水路や河川の水位の急上昇を抑えることで水路や河川から溢れる水の量や範囲を抑制しようというもので

■4. 兵庫県 ^{かこがわ}加古川市で「草刈りフェス 2023」が行われました！■

11月3日に兵庫県加古川市で「草刈りフェス 2023」が開催されました。

「草刈りフェス 2023」は、播磨畦師 (<https://azeshi.com>) とため池みらい研究所 (<https://tameikemirai.com>) が主催し、草刈りを通して播磨畦師の取組に興味を持ってもらい、播磨畦師を増やしたいという思いで開催されました。播磨畦師とは、兵庫県東播磨地域で、草刈りを通して地域とつながり、地域資源を次の世代につなげるお手伝いをするを目的に一般市民の有志によって運営している団体で、営農組合など地元組織から依頼を受けて、有料で耕作放棄地やため池などの草刈り作業を行っています。

フェスでは、応募者が3チームに分かれ、それぞれ「A」「Z」「E」の文字が残るように草刈りを行い、文字の美しさ、安全性、スピードなどの総合点を競いました。

フェスには、大学生を含めた、幅広い年齢の地域内外の方が参加しており、草刈りを通して様々な人と交流できることは貴重な経験だと感じました。

多面的機能支払交付金の活動組織でも、地域外の非農業者も積極的に草刈りなどに参加できるイベントなどに取り組んでみてはいかがでしょうか。

実は、この草刈りフェスには、農林水産省の多面的機能支払交付金担当者も参加し、草刈りに汗を流しました！参加した担当者の声は以下の通りです。

いわっち：チームの方と協力し、きれいな「E」を作ることができました。生き物調査も同時に行い、童心に帰ってカエルなど捕まえたことも、良い思い出です！このような取組が全国的に広まり、草刈りが身近になったら嬉しいです。

ほそっぺ：ただ草刈りをするだけでなく、地域の人と交流できて良かったです！草刈りは不安でしたが、最初にベテランの農業者の方が草刈り機の使い方方を丁寧に教えてくださったので、安心して取り組みました。

くりちゃん：大変楽しいイベントで、草刈りは見方を変えれば非常に魅力的なコンテンツになると実感しました。今後も「播磨畦師」の活動に注目していきたいです。



出来た文字をドローンで撮影しました！



フェスの参加者

■ 編集後記 ■

読者のみなさま、こんにちは。寒くなってきましたが、いかがお過ごしでしょうか。

私は、先日、今回紹介させていただいた、新潟県胎内市の柴橋環境保全会に現地調査に行きました。この組織では、市内の大学に草刈の学生募集のチラシを掲示したり、十分な手当を支給したり、草刈研修など手厚くサポートしたりすることにより、大学生が草刈りに参加していたことが印象に残りました。農業者や大学の理解があってこそその取組だと思いますが、このような取組が広がっていくといいなと思いました。

いつもメールマガジンを読んでいただきありがとうございます。どうか皆様ご自愛ください。

◇多面的機能支払メールマガジン「農村ふるさと保全通信」バックナンバー◇

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/tamen_siharai/nouson_furusato_hozen/index.html

バックナンバーはこちらの二次元バーコードからもご覧いただけます！→



◇「多面的機能支払交付金のロゴマーク」◇

ロゴマークは以下のサイトからご利用になれます。

活動内容の紹介や広報の発信などに、どんどんご活用ください！！

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/attach/pdf/tamen_siharai-31.pdf



高めよう 地域協働の力！

◇配信先メールアドレスの変更・配信解除等◇

メールアドレス等の変更やメールマガジンの配信解除等は以下のサイトから。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/>

手続きにはパスワードが必要です。

お忘れの場合は、以下のサイトでパスワードを再発行して下さい。

<https://www.maff.go.jp/j/pr/e-mag/re.html>

◇多面版 SDGs アイディアシート（案）◇

SDGs アイディアシートのダウンロードは以下のサイトから。

https://www.maff.go.jp/j/nousin/kanri/jirei_SDGs.html

◇ご意見・ご感想等◇

メールマガジンに関するご意見・ご感想や取り上げて欲しいテーマ、ご自身の所属する活動組織の紹介文（300 字程度）等に関するメールをお待ちしております！！

tamen_ml@maff.go.jp

-----【発行】-----

〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1

農林水産省農村振興局整備部農地資源課

多面的機能支払推進室（担当：細川、渡邊）

TEL：03-3502-8111（内線 5493）